

# 「ペンギン・カフェ」

## イギリス発～不思議な魅力に満ちたバレエ

2010 / 2011シーズンのバレエは、ビントレー次期舞踊芸術監督の代表作「ペンギン・カフェ」日本初上演で開幕。  
一世を風靡したペンギン・カフェ・オーケストラの音楽にのって、  
自由で平和な理想郷、そして環境問題をテーマに、動物のマスクをつけたダンサーたちが踊る。  
イギリス・バレエならではのウィットに富んだ作品を新国立劇場バレエ団がどう表現するか。  
ビントレー体制のスタートを切る第一作は必見だ。

文◎貫川絢子

### 演劇性、音楽性 英国バレエの伝統を引き継ぐ ビントレー振付作品

英国を代表する振付家、フレデリック・アシントンとケネス・マクミランの後継者として名高いデヴィッド・ビントレー。アシントンに振付の才能を見出され、一九九五年よりバーミンガム・ロイヤルバレエの芸術監督として活躍しているビントレーは、作品の幅の広さ、振付の質など全ての面において、現代英国バレエの旗手と呼ばれるに相応しい振付家である。実際、現在の英国における振付家の大多数は、よりコンテンポラリーで斬新な振付の方向に向かっており、アシントン、マクミランらによって確立された、ウィットと詩情に富み、クラシックのステップを柔軟に解釈する英国古典主義バレエの伝統を引き継ぐような振付家は、ビントレーの他にほとんどいないのである。

英国バレエの伝統を引き継ぎながらも、伝統に終始しないのがビントレー作品の面白いところ。ビントレー作品の魅力は、その多様性にある。ビントレーは、英国的な演劇要素の強いバレエはもちろん、純粋なダンス、コメディ、そして、メッセージ性の強い諷刺作品など、様々なタイプの作品を手がけている。たとえばスタイルは

### 絶滅危惧種の動物たちが 見せるダンスのショークケース

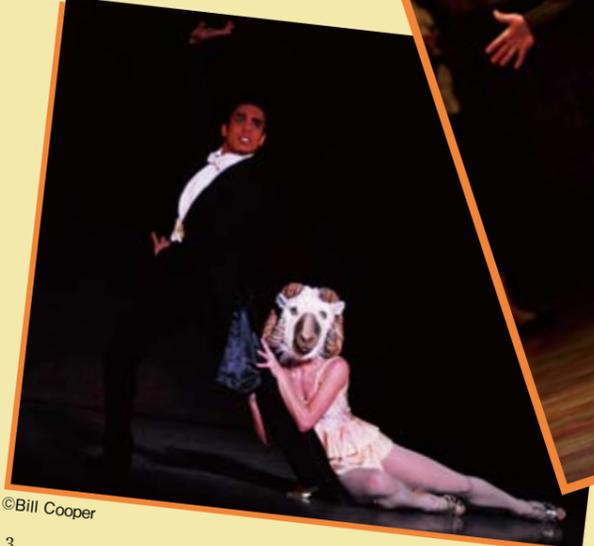
ビントレーの代表作「ペンギン・カフェ」もまた、音楽からインスピレーションを受けて誕生した。作品に使用されている音楽は、八〇年代に一世を風靡したS・ジェフエス率いるペンギン・カフェ・オーケストラの音楽。クラシックや民族音楽、現代音楽などさまざまなジャンルの音楽の要素を取り入れた、不思議な奥行きを持つ音楽である。

音楽のモチーフとなっている（ペンギン・カフェ）のコンセプトは、日々規則やしがらみを感じがらめになっている人間社会のアンチテーゼ的な場所。ペンギン・カフェにいる者は皆、規則に縛られず思い思いに生きている。そんな理想郷（ペンギン・カフェ）を表現すべく、ジェフエスは常識に縛られない、あらゆるジャンルをクロスオーバーした音楽を創りあげたのである。

るウェイターも実は、一八四四年に絶滅したオオウミガラスである。ロングドレス姿のオオツノヒツジが、タキシード姿の男性ダンサーと優雅な社交ダンス風の踊りを披露したかと思えば、他にも様々な動物や熱帯雨林の先住民などが出てきて、チャールストン、モリスダンス、ジャズ、サンバなど、様々なスタイルを取り入れたお洒落なダンスを見せる。ペンギン・カフェに決まりはないのだ。中でも印象深いのは、ケープヤマシマウマの登場場面。シマウマの周りで、頭に骸骨を乗せ、シマウマ皮のドレスを着たダンサーたちが、雑誌モデルのポーズを真似たダンスを踊る。波打つ背中が雄大なサバンナを髪髷とさせるシマウマの《生》に満ちた踊りと、モデルたちの《死》を思い起こさせる無機質なダンスの対比が痛烈な皮肉となっている。

オプティミスティックな音楽に乗せて思い思いに踊る動物たちはユーモラスで、ダンスのショークケース的な作品は観ているだけで楽しい気持ちにさせてくれるが、その裏にこめられたメッセージは厳しい。最後、動物たちが嵐の中を逃げ惑う場面では、全てをコントロールしようとする人間のせいで絶滅に瀕することになった

異なっても、ビントレーの作品には共通する特徴がいくつかある。ひとつはその演劇性。ストーリーの有無に関わらず、ビントレー作品に登場する役は、一人一人の個性がしっかりと確立されており、それぞれが何らかの感情、何かしらの意味を持つ。全てのダンサーは、身体的な存在であるだけでなく、精神的な存在でもあるのだ。もうひとつの特徴は、音楽性。ビントレーの幅広い音楽の知識と、時に大胆な音楽のセンスがダンスと出会い、刺激的な作品が生まれてきた。



じつかわ あやこ  
翻訳家・ライター。東京大学大学院総合文化研究科およびロンドン・シティ大学大学院文化政策運営研究科修了。6歳から20歳までクラシックバレエを学ぶ。2007年より英国ロンドン在住。現在、英国企業にて翻訳・編集業に携わる傍ら、ダンス関連の執筆活動を行っている。バレエ、コンテンポラリーダンスをはじめ、演劇、文学、美術等に関心がある。ダンス・舞踊専門サイト「DANCING × DANCING」にてダンスコラム「ロンドン ダンスのある風景」を連載中。